

インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト

西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援

現地からのお便り

2017年8月

Applied Environmental Research Foundation (AERF)

コンサベーション・インターナショナル

*本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF)が実施します。

持続可能な生計手段づくり

セイタカミロバラン (*Terminalia bellirica*) の実の採集シーズンが終わるこの時期、私たちは、フェアワイルド認証及び有機認証を受けている採集者と共に、セイタカミロバランの実を 4,740 キロ採集しました。採集したのは、ラトナギリ県サンガメシュワー地区の 12 の認証サイトです。セイタカミロバランの実は、サダヴァリの設備に運ばれ、太陽エネルギーを活用した乾燥機、そして温風乾燥機を使って乾燥させました。内部にある種子を取り除き、外側の部分 1,562 キロを英国の Pukka Herbs 社に売りました。さらに、様々な理由で残った外側の部分から 105 キロの粉末を作りました。セイタカミロバランは、アーユルヴェーダの代表的な薬であるトリファラの原料の一つであり、村の力で最終産物であるトリファラを国際市場に販売できれば、村のビジネスの自立に大きく役立ちます。それに向けて大きく前進することができました。



セイタカミロバランを詰め（左上）、量り（右上）、ラベルを付け（左下）、出荷（右下）

フェアワイルドと有機認証の監査

非木材林産物の持続可能な採集、公平な利益の分配、そして付加価値をつけることによる地元コミュニティへの便益の提供を推進するため、私たち AERF は、2015 年よりフェアワイルドと有機認証を導入しています。これらの認証は、認証を受けてから 1 年間有効であり、毎年更新する必要があるため、毎年、産物の収穫と搬出が行われる時期にルールを守っているかの監査が行われます。今年も、その監査が二つの審査機関により、それぞれ 4 月にはと 6 月に実施されました。また、この他に、加工処理過程についての認証についても検査がありました。これらの認証によりセイタカミロバランの粉末を生産するまでの一連の工程すべてが外部機関により認証され、国際的な市場へのアクセスが可能になります。今後、地元コミュニティが非木材林産物の採集と加工処理から受け取る収入が飛躍的に増加することが期待されます。フェアウッド認証及び有機認証の監査にかかる費用は、それぞれ、Pukka Herbs 社とダイキンにより負担いただいています。すでに、採集と加工に関する有機認証の証書は受領し、フェアウッド認証の証書も 9 月に受領する予定です。

炭素蓄積量の推定のための能力開発

熱帯雨林がもたらす重要な生態系サービスの一つが炭素の吸収と貯蔵です。AERF は、保全契約を実施しているコミュニティ林で、2012 年から炭素貯蔵量の推定のための調査を実施しています。今期、AERF の研究員の指導の下、AERF の新しい調査チームが 2 つのサイトで炭素貯蔵量の推定を行い、より広範囲の森林を対象とした同様の調査に向けた AERF 内の人材育成を行いました。対象地は AERF が 2009 年から保全契約を結んでいるアンバヴァリ村とカサル・コルヴァン村で、トレーニングに加え、森林の成長の理解と、伐採等のモニタリングも目的でした。どの種類の木が最も炭素貯蔵の面で可能性が高いかの理解にも役立ちます。調査の結果、一ヘクタールあたり、最大 65 トンの炭素を貯蔵していることがわかりました。



調査の様子

森林再生

6 月、地元コミュニティと協力して、自生種 31 種からなる 617 本の実生をサンガメシュワの 5 つの場所に植えました。対象地は、森林再生の必要性と、保全契約の対象林の周辺の緩衝地帯形成の必要性から決めました。植えられた実生には、放牧牛から守るため、ネットで覆いをかけました。



神聖な森の荒廃地を森林再生する様子

コミュニティ・ミーティング

4つの村で、地元コミュニティと地元リーダーと、保全契約に関する様々な決定に向け、前期までの話し合いをフォローアップするためのミーティングを行いました。

地元コミュニティメンバーから提供された保全契約の対象となる森林に関する情報に基づき、森林面積や保全の価値の理解のため、AERF チームが簡易な森林調査を行いました。4つの村が保全契約に署名する可能性は高く、署名した場合、約 240 ヘクタールの森林が保全の対象となります。





対象地でのコミュニティ・ミーティングの様子(上)、森林の様子(下)

保全契約

多くの村々への働きかけの結果、このプロジェクトを開始して以降の初めての保全契約をウジャオン村と締結することができました。保全の対象となる森林は、樹齢の高い木がたくさんある約 10 ヘクタールの森で、フェアウッド認証の対象地でもある村の申請な森の緩衝地帯として機能し、ムユウジュやウパスノキといった希少樹種の保全に重要な役割を果たします。



保全契約を署名する様子